

神田日勝記念館

だより

神田日勝記念館 〒081-0292 北海道河東郡鹿追町東町3丁目2 TEL (01566) 6-1555



静物 1966年

4月から修復に出されていましたが、このたび修復作業が完了し11月23日から展示されます。

1999 11.15

No.11

平成11年度前期展示替え

展示期間 4月27日(火)～11月21日(日)

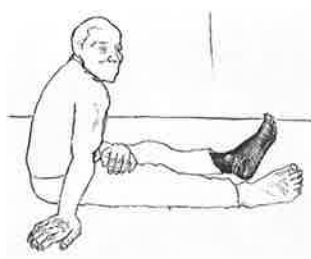
北海道新聞社より「デッサン集」が刊行されることにあわせ、2F展示室においてデッサンの展示をしています。デッサンは開館以来、記念館で寄託作品として所蔵している作品の展示をしてきましたが、この度の「デッサン集」で未発表作品が多数公開されることになり、既に公開されている作品とあわせて未公開作品の展示をご遺族の快諾をいただき実現しました。ほとんどの作品が、デッサン帖に描かれているため、展示ケースによるデッサン帖ごとの展示となり期間ごとでページを替えて展示します。



なお、後期展示も引き続きデッサンを入れ替えて展示する予定です。



人
1962(昭和37)年頃 墨・鉛筆/紙 24.2×29.0cm



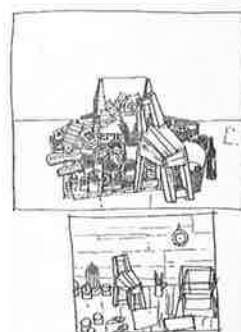
人
1962(昭和37)年頃 墨/紙 24.2×29.0cm



人
1962(昭和37)年頃 墨/紙 24.2×29.0cm



ヘイと人
1969(昭和44)年頃 ペン/紙 25.6×17.9cm



画室
1967(昭和42)年頃 ペン/紙 25.6×17.9cm



風景
ペン/紙 17.8×12.2cm



農場
ペン/紙 10.5×14.7cm



家
コンテ/紙 20.2×23.7cm

第五回 蕪壱祭

六月十七日

神田日勝記念館の開館を祝う「蕪壱祭」(ぶこんさい) 荒れた地を切り開くという意味で、神田日勝記念館が鹿追町に誕生した意義を称える高橋探一郎館長の命名) が今年も開館記念日である六月十七日に記念館展示室を主会場に開催されました。

神田日勝の代表作群が展示された記念館の絵画空間のなかで、鹿追町の女性コーラス「そよ風コーラス」の演奏によるミュージアムコンサートが行われました。「ほたる」「知床旅情」「時計台の鐘」「ソラン節」など観衆に親しみ深いレパートリーを合唱、さらに四月姉妹提携する長崎県鹿町町で行った演奏旅行のお土産曲として「鹿町遊情」を披露しました。



休憩をはさんで合唱組曲「チコタン」、曲調の巧みな変換と内容の展開で会場を魅了しました。

演奏終了後、鹿追町民ホールのホワイイトホールに会場を移動。恒例の「ワインとチーズの交流会」が開催されました。実行委員が選択した世界各国のワインと十勝産のチーズがならべられたテーブルを囲み、芸術談義のひとつを過ごしました。特に本年試みたパンと塗るチーズの組み合わせは好評で列ができるほどでした。参加者各層の方々への即興のテーブルスピーチではこの催しが好評の裡に町民に親しまれつつあることを思わせました。締めくくりは「そよ風コーラス」によるアンコール演奏。次年度は東京から合唱団がこの催しに併せて演奏旅行に訪れる予定という予告もなされました。

またこの記念日をはじめ、六月十一日から二十日まで、北海道電力の協力により神田日勝記念館がライトアップされました。開館以来恒例となったこのライトアップ。宵闇の中に浮かぶ幻想的な記念館の姿も、また「蕪壱祭」を彩っています。

もも
子どもワークショップ

プロペラひこうき
を作ろう!

八月十二日(水)鹿追町民ホール

夏休みの一日、小学生を対象に子どもワークショップ「プロペラひこうきを作ろう!」が、講師にかつて鹿追中学校で教鞭をとっていたことがあり、同時期(八/十/十八)鹿追町民ホールで展覧会を開催中のホシバリヨウミツ先生を迎えて開催されました。参加した二十五名の子どもたちは、割り箸と色画用紙をセロハンテープを使って組み合わせ、主翼にたこ糸をつけ遠心力を利用し振り回すとプロペラがまわり飛んでいるように見えるという、プロペラひこうき作りに挑戦しました。

猛暑のなか、真剣な表情で作成あげたひこうきを夢中になつて飛ばしていました。



第七回 馬耕忌

八月二十二日

神田日勝記念館の開館とともに企画された神田日勝の生涯と画業を顕彰する「馬耕忌」も本年で第七回目、昨年同様鹿追町民ホールを会場に、午後三時より開催されました。

第一部はミュージカルホールのステージに掲げられ野の花に飾られた遺影の前に献花と黙とう。田中光俊氏のギター演奏が流れるなか、参加者全員が菊花を捧げました。

第二部は散文朗読。第一部に引き続き田中氏のギター演奏が行わ



れる中で、加藤多一著『馬を洗って』所載の文章を都甲雅子さんが朗読、数多くのステージで競演されている両氏による「朗読とギター演奏」は彩り深いものであり、参加者を魅了しました。すでに昨年より構想を温めていたもので、この催しに対する両氏の思い入れの深さがうかがえるものでした。

第三部はアートディスカッション。吉田豪介市立小樽美術館長と高橋揆一郎神田日勝記念館長による館長対談が行われました。館長それぞれの美術とのかかわり、神田日勝についての想いとその画業に対する評価、さらに同時期に開催されている「北の現代具象展」に触れ日勝と現在の北海道画壇におけるリアリズムの状況について言及されるなど、短時間ながらも興味ある内容で対談が展開されました。

なお例年第三部として記念館前広場で行っていた交流会については会場と内容を一新、実行委員が準備に追われ演奏や対談に加われなかった状況に考慮し、全員が事業に参加できるようにと、開始時間を一時間遅らせるとともに、日程が終了後別会場に

移動してジンギスカンパーティーを行いました。パーティーには「北の現代具象展」の出品作家も加わり、思い思いの芸術談議を交わしていました。



馬の絵写生会

8月4日(水) 鹿追町ライディングパーク



馬の絵作品展の一環として、子どもたちに馬を描く機会を提供するため、夏休みを利用して写生会が開催されました。出村英和先生の指導のもと、16名の児童が参加し、柵の中につながれた馬を真剣に描いていました。猛暑という悪条件が加わり、モデルとなる馬も途中何度か交替、また参加者も汗まみれとなり、完成作品は1点もありませんでした。それでも体験乗馬等も組み込まれたこの催しに、子どもたちは充実感を得ていました。

絵画教室—油絵講座

10月8・13・15・20日 神田日勝記念館



絵画教室—油絵講座が10月、4回コースで開かれ昨年に引き続き出村英和先生を講師に迎え指導を受けました。経験者2名と初心者3名の受講があり、題材は経験者には自由に設定してもらい、初心者は花瓶や果物といった静物画を描きました。

毎回、時間いっぱい熱心に描き上げた作品は、町民文化祭作品展に出品し、成果を発表しました。

第5回馬の絵作品展



北海道知事賞受賞作品

募集範囲を十勝管内の小中学校からはじめたこの作品展も回を重ねるごとに範囲を広げ、第四回まで道外への募集は、一部の地域だけでしたが第五回目を迎える今回は全国のホースサミット加盟市町村へも呼びかけました。その結果道外からの応募作品が一五四点寄せられ総数

神田日勝が馬を愛し、多くの馬の絵を残したことにちなみ、小中学生を対象に開催している馬の絵作品展も第五回となりました。

募集期間 7月15日(木)～9月5日(日)
 覧会式 10月5日(火)～11日(月)
 表彰式 10月9日(土)
 発表会 鹿追町民ホール



者を楽しませてくれました。十月九日表彰式が行われ、遠く道外からの受賞者の出席もあり、それぞれ賞状と楯が手渡されました。

十月五日～十一日までの展覧会には全ての応募作品が展示され、会場となった鹿追町民ホールは馬の絵でいっぱいになりました。会期中は、出品した子どもが家族といっしょに訪れる姿もあり、たくさんの方の来場

一、二八八点の馬の絵が集まりました。審査の結果入賞十二点、入選三十三点、佳作四十九点が選出されました。北海道知事賞には釧路市立鳥取中学校3年生の三田村瑠衣さんの作品が選ばれ、齊藤隆博審査委員長は「縦の力強い構図の中で、草を食む白馬の柔らかな毛並みを抜群の描写力で表現した力作でした。また作者の人柄も感じさせるものでした。」と講評しました。



入賞

- 北海道知事賞
- 北海道教育委員会教育長賞
- 鹿追町長賞
- 鹿追町教育委員会教育長賞
- 神田日勝記念館長賞
- 北海道新聞社賞
- 日本放送協会賞
- 十勝造形サークル委員長賞
- 帯広市教育研究会図工美術部会長賞
- JR北海道社長賞
- 北海道電力帯広支店長賞
- 帯広信用金庫理事長賞

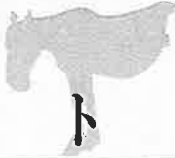
- | | | |
|----------------|----|-------|
| 釧路市立鳥取中学校 | 3年 | 三田村瑠衣 |
| 千歳市立泉沢小学校 | 4年 | 島影 大嗣 |
| 鹿追町立瓜蒌小学校 | 6年 | 宮下 智香 |
| 釧路市立鳥取中学校 | 2年 | 鈴木 千尋 |
| 菊岡町立菊岡小学校 | 6年 | 山本 淳史 |
| 函館市立の場中学校 | 3年 | 佐々木慶一 |
| 選野市立選野中学校 | 1年 | 菊池みどり |
| 芽室町立芽室小学校 | 1年 | 荻原 初夏 |
| 鷹栖町立北野小学校 | 1年 | 成田 麻実 |
| 北海道教育大学附属釧路小学校 | 5年 | 町口 憲紀 |
| 鹿追町立鹿追小学校 | 3年 | 津田 鎌平 |
| 北後山町立北後山小学校 | 2年 | 上縄手 拓 |

巡回展

10月20日(水)～11月5日(金)
 サッポロファクトリー



今年の巡回展は、札幌市のサッポロファクトリー内のウォールギャラリーで開催し入賞・入選・佳作作品94点を展示しました。



感想ノ一トより ⑨

11.4.4.

ある本を讀み、神田日勝氏の二七を知り、日年何日半分の馬を
見に行きたいと思ふ。はから、也と今日頼みかかぬ。二七を
訪ねては、その絵やあの馬の絵を
見たい。

私、あつと、二七の二七でしよう。 絵を拝見可

4/24

静岡県

友三郎 三子

南館以来 春(雪けけを待て、) 秋(雪の降る前)
と年二回訪ねるの。私、行幸のつに
なりました。
日勝峠を越え、山を越え横に、日勝記念館
から見ると、ほとはほ
何の気もなく、その二に腰を降した
ノンビリマツ子、これと、その二に私、大い
時間、その、明日から、又、おん、つて御、
日勝の絵と、その、おん、つて御、 白鹿、

'99. 5. 26

毎年一度は来訪にしています。 自分、親、自分、生れ前の生活を
かま見ると、日勝の作品は好きです。 描いた当時の「日常」が
今の私には新鮮に目に映ります。 又、昔ながらの思い、縁に、
園の緑も、その、私、つて御、 来たります。

私、つて御、

8. 19.

今日、二度目の、やはり、圧倒されました。 息が、つて御、
不思議な、つて御、

彼の絵の、この、鹿、つて御、 神田日勝、つて御、
の、つて御、 私、つて御、 又、つて御、

つて御、 木、つて御、

神田日勝の絵を見ないと、
北海道に生る人の、つて御、
感じます。

彼が生る、この、つて御、
幸です。 又、つて御、

つて御、

木下晋展 — えんぴつの世界

4月29日～5月9日



鉛筆を使った克明な写実画により近年高い評価を得ている木下晋氏の大作を集めた「木下晋展—えんぴつの世界」が開催されました。会場には九日から九日までの二十種類の鉛筆を用いて描かれた『流浪』『徘徊』など自分の母親をモデルとした作品をはじめとして、妻子・ゴゼ・老女・職人を素材にした四十点が展示されました。

展覧会事業

— 会場 鹿追町民ホール —

木下氏の作品はかつて目黒区美術館等を中心に全国巡回した「戦後文化の軌跡展」で、神田日勝の『室内風景』とともに出品され、殊に広島会場では隣に展示されたこと、さらに愛媛県久万町立美術館の「木下晋祈りの絵展」では記念対談で窪島誠一郎信濃デッサン館主と冒頭神田日勝を論じるなど、木下氏の日勝への思い入れがあり実現したものです。北海道で初めての展覧会とあって、会期中には全道から三千五百人を超える入場者が訪れ、木下氏の作品に感銘を受けていました。

記念対談—リアリズムの系譜—

木下晋の世界について

四月二十八日

木下晋展のプレイベントとして、練馬区立美術館の土方明司学芸員と木下晋氏による記念対談が行われました。油彩・クレヨン等から鉛筆画による絵画制作への転換、画風の変化、題材への思いについて、スライドを用いながら木下氏の作品理解に大きな示唆を与えられました。また神田日勝の絵画についても言及、『馬』等を例示してリアリズム画家と評価されるその画業に新しい視点を与えていました。



四季の白樺を描く—中西堯昭展

六月一日～七日

「風や光の移動によって織りなす風物の美しさ、広い平原や緑の森や林と透明な空気、黄金色の空気の中で燃える秋、凍原にブラウンピンクの柏林とローズグレーの白樺林など、白樺を配した十勝の四季の移り変わりの美しさは最高だ」（作者の言葉より）二十年余にわたり十勝の白樺のある風景を追い、自然の美しさを描き続けてきた中西堯昭氏の一九八七年以来最新作までの自選四十五点を展示した作品展。

作家の平成十年度十勝文化賞の受賞を記念し、十勝文化会議・十勝毎日新聞社との共同で開催となりました。十年を跡付ける大規模な個展、さらに「扇ヶ原」や「然別湖」など鹿追が描かれた風景も出品され、訪れた観覧者を親しみと感動を伝えていました。



展覧会事業

—会場 鹿追町民ホール—

ホシバリヨウミツ展

八月十日～十八日

ホシバ氏は奥尻町出身で北海道教育大学札幌分校特設美術科卒業。中学校の教員となり初任地であった鹿追町での初の展覧会となりました。

リトグラフによる、初期作品から近作の触覚的表現法による一色でリアリティのある作品作りを追求した「図画の時間」十八点を含む五十七点を発表しました。

「いつか当時の子ども達に作品を見てもらいたい」というホシバ氏の思いも叶い、多くの来場者のなかには、教え子が子ども連れで会場を訪れる姿もありました。



第九回北の現代具象展(巡回展)

八月二十一日～二十九日



札幌時計台ギャラリーを主会場として開催されている「北の現代具象展」の第九回展の巡回展が、本年度は中標津・根室・小樽とともに開催され

入館者三十万人達成

七月三十一日、上川管内上富良野町在住の自衛官鈴木忍さんの来館で、開館以来の入館者が三十万人となりました。鈴木さんは、金山湖で「しかおいスタンプラリー」の台紙を入手し、その一ポイントとして友人とともに

に訪れたもので、勤務の関係で何度か通過してはいたが入館は初めてとのこと。鹿追焼の陶器・記念館図録・オリジナルテレカ等が記念品として贈呈されました。



ました。第五回展以来道内各地を巡回する形を確立したこの北海道内の具象画家のグループ展も、来年の第十回展を区切りはその活動に幕を下ろすことになっています。この展覧会にはさまざまな美術団体に所属する十八作家の二十七点が出品され、獨創性に富んだそれぞれのリアリズムの世界を展開していました。この展覧会は「馬耕忌」と同時期に開催、神田日勝と現在の絵画におけるリアリズムの系譜を、北海道美術史の流れのなかで考えるため企画されたものです。

● 神田日勝デッサン集刊行

10月20日北海道新聞社より、「神田日勝 デッサン集」が刊行されました。北海道立近代美術館鈴木正實学芸部長監修、神田日勝記念館編集により作られたこのデッサン集には、74点中、45点の未公開作品を収録。日勝の著述文や年譜も収録。全国の書店他、記念館でも販売しています。



● 一筆箋発売

かねてから記念グッズに対する要望が多く、その声にお応えして、一筆箋を作製しました。また、「画室A」をあしらったメモ帳も作製中で近日発売する予定です。



INFORMATION

今後の事業予定

- ・子ども絵画教室（冬休み）
- ・子どもワークショップ（冬、春休み）

- ・絵画教室（2月）